令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
1	附属小学校	５年	風坂　苺亜（ふうさか　まいあ）
テーマ	１．小学校の生活について		
提案要旨	未来の小学校のプールについて		

【提案内容】

プールの利用について提案します。
近年、温度が高くなり、外で体を動かすスポーツができなくなることがあります。
そこで、屋内プールなど、温度に関係なくできる場所でプールをやったらいいと思いました。もしくは、プールに屋根を設置して、少しでも温度を下げる工夫をしたほうがいいと思います。それができない場合、ほかの学校や市民プールの協力を得てプールの授業をしたほうがいいと思いました。
その対策をしている学校が今は９校ありますし、保護者からも安心という声が寄せられているので、私は屋内プールの対策をした方が良いと思いました。

【市長回答】

未来の小学校のプールについてご提言をいただきました。
気温の上昇により水泳の授業が難しくなる中、他の学校や市民プールとの協力、屋内プールや屋根の設置といった対策が必要ではないかというご意見です。まさにその通りだと思います。
現在、猛暑が続く中で屋外プールでの授業はだんだん難しくなってきています。加えて、市内の小学校ではプール設備の老朽化も進んでおり、こうした状況への対応が求められています。そのため、民間のスイミングスクールを活用した水泳授業の実施を検討しており、今年度は市内9校でモデル事業を行う計画としています。
いただいたご提言の趣旨をしっかりと踏まえ、引き続きさまざまな形で水泳の授業が行えるよう取り組んでまいりたいと思います。

【担当課回答】

【教育総務課・学校教育課】
夏場の猛暑への対応や鳥取市内の学校プール施設の多くが古くなっていることもあり、安全にプール授業を行うため、令和7年度は3校、令和8年度は6校を加えて9校で、民間のスイミングプールを活用した水泳のモデル授業を行っています。
このモデル授業で出てきた良い点や課題を整理して、さらに多くの学校で民間プールの活用を検討したり、民間プールの活用が難しい学校では古くなったプール施設を改修するなど、引き続き、安全に楽しく授業を行うための取り組みを進めていきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
２	附属小学校	５年	岸本　悠愛（きしもと　ゆあ）
テーマ	１．小学校の生活について		
提案要旨	他の学校との協力		

【提案内容】

ほかの学校との協力について提案します。
最近、天気や気温で体育館が使えなくなります。夏だと暑さ、冬だと寒さが迫っています。なので、体育館やすべての教室にエアコンが必要です。エアコンの費用はとても高いです。なので、他の学校とエアコンの費用を分け合い、エアコンが完成したらエアコンのある教室を貸し合ったらいいと思います。
すべての学校が難しければ、３校で１グループみたいな感じにすると良いと思います。子どもたちの健康や活動をしっかり守っていくには必要なので、よろしくお願いします。

【市長回答】

他の学校との協力についてご提言をいただきました。
気温や天候の影響で体育館や教室が使えなくなる状況があることから、すべての教室や体育館へのエアコン設置が必要であるというご意見です。一方で、その費用が高いことから、他の学校と共同利用するといった工夫も提案いただきました。
現在、猛暑の中で体育の授業を安全に行うことが難しい状況となっています。こうした中で安全・安心な学習環境を確保するため、市内の学校・体育館への空調設備の設置を具体的に進めているところです。また、水泳の授業については、市内の民間スイミングスクールの活用も計画しています。
今後は、新たな設備にコストをかけるだけでなく、市の施設や民間施設など既存の施設をうまく活用していく考え方が重要になると思っています。いただいたご提言を踏まえ、こうした取り組みを進めていきたいと思います。

【担当課回答】

【教育総務課・学校教育課】
夏場の猛暑で体育学習を安全に行うことが難しい気候になっています。安全で安心な学習環境を確保するため、まずはモデル事業として浜坂小学校の体育館に令和8年度中に空調を設置するための工事をしているところです。このモデル事業で得られた成果を踏まえて、鳥取市内の学校体育館へ空調を設置する考え方を決めていきたいと思います。また、水泳の授業では、民間のスイミングスクールを利用する学校を拡大していく計画としています。
これからは、施設を新しく作るだけではなく、設備などが整っている公共施設や民間施設など既存の施設の活用も検討しながら、安全に体育学習を行える環境を整えていくことが大切であると考えています。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
３	附属小学校	４年	廣戸　麻智（ひろと　まち）
テーマ	１．小学校の生活について		
提案要旨	子どもも先生も楽しくて安心できる学校		

【提案内容】

私がこのテーマで提案したいことは先生の分担です。
学校のいろいろなことを一人の先生が全部するのではなく、それぞれの専門の人が先生になって分担すれば、先生も子どもも、いい学校生活が送れると思います。
先生は仕事の量が減って、働く時間を守って、子ども一人一人のことを考えることができるようになります。また、負担が減ることで必要な業務に時間をかけることができるため、やりがいも増えます。
子どもにとっては、「話をちゃんと聞いてもらえない」という悲しい経験が減り、楽しく勉強できるようになります。また、「A先生はダメと言ったのに、B先生はいいと言った」といった先生によるルールの違いもなくなり、思っていることがうまく伝わらずモヤモヤするような経験も減ります。そして、専門の先生に安心して頼れるようになります。
私が考えた分担は、クラスは担任の先生、勉強は教科の先生。部活やクラブは専門のコーチ、怪我や病気は保健の先生、心の問題はスクールカウンセラー、発達の相談は特別支援教育コーディネーター、生活ルールは警察官の先生、トラブル解決は弁護士の先生、図書室は図書の先生が担当します。
もしも保健室の先生などが出張などでいない時は、代わりの先生がいるといいと思いました。

【市長回答】

子どもも先生も楽しく安心できる学校についてご提言をいただきました。先生の業務を分担制にすることで、先生と子どもの負担が減ってやりがいが増すとともに、子どもたちの思いがしっかり伝わり、先生と触れ合う時間が増えるのではないかというご意見です。また、先生の働き方改革にもつながるという趣旨もいただきました。
現在、小学校では担任の先生が原則としてさまざまな科目を担当していますが、中学校・高校では教科ごとに専門の先生が授業を行う形となっています。今回のご提言は、小学校においても同様の分担制を導入してはどうかというものです。メリット・デメリット双方あると思いますので、教育委員会とも具体的に話し合ってまいりたいと思います。
何より大切なのは、先生が子どもたちと関わる時間を確保することだと理解しています。担任の先生はもちろん、担任以外の先生とも触れ合える時間が生まれるような工夫が必要ではないかと、改めて今お話をいただいて感じたところであります。

【担当課回答】

【学校教育課】
先生の仕事を分担制にして先生一人一人の負担を少なくすることは、先生と子どもたちが関わる時間を増やすことにつながります。そのことは、先生にも子どもたちにもたくさんのメリットがあり、楽しい学校づくりに必要です。
教科ごとに担当する先生を変えるなどの分担制も提案してくださいました。現在、多くの小学校では、一人の担任の先生がいろいろな教科の授業を担当していますが、中学校・高校では教科ごとに専門の先生が授業を担当しています。小学校でも同じように授業を分担した場合のメリット・デメリットも考えながら、もっと楽しい学校になるための方法を、教育委員会と話し合っていきたいと考えています。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
４	青谷小学校 瑞穂小学校	６年 ６年	池田　彩奈（いけだ　さな） 飯田　真生（いいだ　まお）
テーマ	２．鳥取市の子育てについて		
提案要旨	子育て支援の充実による定住・移住促進		

【提案内容】

（池田議員）
　私は、子どもたちが安全に預けられる施設について提案します。理由は、青谷小学校や瑞穂小学校の近くには、保育園などの預けられる場所がないためです。

（飯田議員）
　そこで、無料の預けられる施設を作ることで、若い年代の人たちにも子育てがしやすくなると考えます。子育てがしやすくなると少子化対策にもなり、預けられる場所などを作ることで鳥取に来る人が多くなると思いました。

【市長回答】

　鳥取市の子育てについて、安心して子どもを預けられる施設が必要であるというご提言をいただきました。
　鳥取市では、保育園・幼稚園への入園待機が生じないよう従来から力を入れており、年度の途中ではご希望の園に入園できない場合もありますが、できる限り希望に沿えるよう努めています。引き続き、安心して子どもを預けられる環境を維持できるよう取り組んでまいります。
　現在、人口減少・少子高齢化が予測を上回るスピードで進んでいます。こうした状況だからこそ、子育て支援にはこれまで以上に力を入れ、安心して子育てができる環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。

【担当課回答】

【幼児保育課】
　保育園は、それぞれの中学校のエリアごとに１つ以上設置することとしていて、３歳以上になると保育料がかからずに通うことができます。
　また、保育園に通っていないお子さんでも、必要なときに預けられる「一時預かり事業」や「こども誰でも通園制度」も実施しています。
　引き続き、安心して子どもを預けられたり、子育てができる環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
５	湖山小学校	６年	邨上　実咲（むらかみ　みさき） 松本　和奏（まつもと　わかな） 澤田　瑞季（さわだ　みずき）
テーマ	２．鳥取市の子育てについて		
提案要旨	子どもからお年寄りまで使える交流施設の整備		

【提案内容】

（邨上議員）
　私は、幼い子どもからお年寄りの人まで使える施設について提案します。
　湖山町では、幼い子どもからお年寄りの人まで使える施設が公民館しかないので、みんなで触れ合える大きい施設が欲しいです。それに、小学生や中学生はみんなで勉強したりするところがあまりないです。だから、誰でも気軽に使えるところ、いろんな人と交流するところが欲しいです。

（松本議員）
　私は、夏でも冬でも子どもたちが安全で元気に遊べるところについて提案します。
　雪が降る冬の時期や温度が高くて暑い夏の時期は危険な時期なので、外で遊ぶと体調を崩してしまうので、安心安全で子どもたちが元気に勉強や遊びができるところが欲しいです。

（澤田議員）
　室内で安全に過ごせる公共施設について提案します。
　図書館みたいな勉強できる施設や、世代問わずに遊べるような施設が欲しいなと思います。湖山には室内で遊べる場所が少なく、湖山公民館に多くの人が集まり、遊ぶことがあまりできません。そのため、子どもや大人が快適に過ごせるよう、交流できるような施設が欲しいです。

【市長回答】

　子育てに関するご提言として、室内で安全に遊べる場所が必要であるという共通したご意見をいただきました。具体的には、さまざまな人と交流・触れ合える公共施設の整備、冬や夏の厳しい天候でも体調を崩さずに遊べる場所、そして安全に遊べる施設の充実を求めるご提言でした。
　鳥取市内には、わらべ館・児童館・子育て支援センター・61の地区公民館・図書館など、すでにさまざまな施設があります。一方で、地域によっては屋内で体を動かして遊べる施設が少ないことも認識しています。そのため、地区公民館を子どもたちの居場所として活用していきたいと考えており、最終的にはすべての地区公民館をそのような施設にしていくことを目指しています。今年度はまず15の地区公民館の環境を整え、放課後などに子どもたちが気軽に利用できる居場所づくりに取り組んでいます。
　引き続き、公共施設や民間施設も活用しながら、皆さんが安心して遊び、集える場所づくりに取り組んでいきたいと思っております。

【担当課回答】

【こども未来課】
　夏の暑い日や冬の雪の日でも安心して遊んだり、勉強したり、いろいろな世代の人と交流したりできる場所がほしいという提案をいただきました。
　鳥取市には、わらべ館、児童館、図書館、地区公民館などがありますが、施設によって利用できる年齢や時間、できることが異なり、地域によっては室内で体を動かして遊べる場所が少ないという課題もあります。
　そこで、令和8年度は、市内15か所の地区公民館で、放課後などにこどもたちが安心して過ごせるよう、必要な設備や受入体制の整備を進めています。
　今後も、身近な地区公民館をこどもたちが利用しやすい場所にしていくとともに、駅周辺の再整備や公共施設、民間施設の活用、民間事業者との協力なども含め、遊び、学び、交流できる場所づくりを進めていきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
６	青谷小学校	６年	小林　怜央（こばやし　れお） 山﨑　因（やまさき　ちなむ）
テーマ	２．鳥取市の子育てについて		
提案要旨	子どもが遊ぶ場所を充実させたい		

【提案内容】

（小林議員）
　僕たちは、子どもが思い切り遊べる公園や、雨の日や暑い日でも楽しめる室内施設を増やすことと、施設間の利用手段を増やすことを提案します。僕の家の周りには遊ぶ施設がなく、施設を利用するのにも時間がかかります。なので、遊ぶときは家族に送ってもらったりなど、時間もお金もかかります。だから、子どもが気軽に利用できる室内施設を増やすことで、今よりもっとワクワクできる鳥取市になると思います。さらに、移動手段も充実させ、子どもが利用しやすい料金設定にすることで、家族も安心して子どもを送り出すことができます。

（山﨑議員）
　僕の家の周りには遊ぶ場所があまりなく、困っています。でも、他の県のことを調べてみると、遊べる施設がたくさんあり、鳥取市もこんな風になればいいなと思いました。こんな子ども同士で気軽に遊べて、今よりもワクワクできる鳥取市にしてもらいたいです。

【市長回答】

　家の周りに遊べる施設が少ないこと、また施設への移動にかかる費用や交通手段についても考えてほしいというご提言をいただきました。施設が充実することで、ワクワクできる鳥取市になるのではないかというご意見です。
　自宅の近くに遊べる場所がたくさんあることは理想的ですが、地域によってはそのような施設が少ない状況があることも承知しています。鳥取市には、こどもの国・わらべ館・児童館・子育て支援センター・地区公民館など、すでにさまざまな施設があります。まずはこうした既存の施設を子どもたちの居場所として最大限に活用できるよう取り組んでまいりたいと考えております。
　また、新たな大規模施設の整備には多くの費用と準備が必要であり、すぐに実現することは難しい面もあります。引き続き、既存施設をうまく活用しながら、皆さんに利用していただける方法をさまざまな角度から検討・研究していきたいと思います。

【担当課回答】

【こども未来課】
　家の近くに遊べる場所が少なく、遊びに行くために家族に送ってもらう必要があるなど、時間やお金がかかるというお話を聞きました。子どもたちが自分たちの住んでいる地域で、気軽に集まって遊べる場所があることは、とても大切です。
　鳥取市では、おおむね小学校区ごとにある地区公民館を、こどもたちの身近な居場所として活用する取組を進めています。令和8年度は、まず15か所の地区公民館で、放課後などに安心して過ごせる環境づくりを進めています。
　また、雨の日や暑い日にも体を動かして遊べる場所については、駅周辺を再整備する時にできないか、今ある公共施設や民間施設を活用できないか、民間事業者と協力できないかなど、さまざまな方法を考えていきます。遊び場をつくることだけでなく、子どもたちが利用しやすいことも大切な視点として、取組を進めていきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
７	附属小学校	６年	小山　祐輝（こやま　ゆうき）
テーマ	２．鳥取市の子育てについて		
提案要旨	子どもが遊びやスポーツを楽しめる公園		

【提案内容】

公園へのスポーツ遊具の設置と無料化について提案します。
サッカーゴールやバスケットゴールなど、スポーツに関する遊具が公園に設置されていたら嬉しいと思いませんか。現状、鳥取県内の公園でサッカーゴールが無料で利用できる場所はありません。運動が好きな人たちにとって、好きなスポーツの遊具が公園にあることはとても大切だと思い、この提案をしました。
次に、この提案が実現した場合のメリットとデメリットを説明します。
メリットは、公園の利用者数が増加することです。スポーツ遊具が無料で使えるようになることで、これまでお金を払って施設を利用していた人たちも無料の公園に来るようになり、利用者数が増えると考えます。
デメリットは2つあります。1つ目は、有料施設の利用者数が減少することです。無料の公園に人が集まることで、これまでお金を払って利用していた施設の利用者が減ってしまう可能性があります。2つ目は、利用者が増えすぎることで、サッカーゴールやバスケットゴールなどの遊具の劣化が早まることです。
これらのメリット・デメリットを踏まえながら改善を重ねることで、未来の子どもたちも楽しく遊べる環境が生まれ、鳥取で運動する人が増えていくのではないかと思います。

【市長回答】

小さな子どもも楽しめる遊具の設置や、サッカーゴール・バスケットゴールのある公園の整備など、スポーツや運動を楽しめる環境を充実させてほしいというご提言をいただきました。また、施設の無料化と有料化それぞれのメリット・デメリットについてもご指摘いただきました。無料化によって有料施設の利用者が減少する可能性や、利用者が増えることで施設の劣化が早まるといった課題はありますが、結果的に運動する人が増えることにつながるため、両面をしっかり検討しながら進めていくべきというご意見でした。
市内には多くの公園がありますが、サッカーやバスケットボールをするには十分な広さがない公園もあります。また、小さなお子さんや高齢者の方も利用されているため、安全にボール遊びをしていただくことが難しい面もあります。一定の広さがある施設としては、市民スポーツ広場や重箱緑地のような多目的広場がありますので、こうした場所でのびのびとスポーツを楽しんでいただきたいと思います。引き続き、そのような場所をできる限り確保できるよう考えていきたいと思っております。

【担当課回答】

【河川公園課】
市内の公園には、サッカーやバスケットボールをするには広さが十分でなく、小さなお子さんやお年寄りの方も利用されるため、安全にボール遊びをすることが難しい場所もあります。そのため、ボール遊びができる公園をすぐに増やすことは難しいですが、市民スポーツ広場や重箱緑地のような広さのある多目的広場を、できる限り活用していただきたいと思います。

公園はもともと無料で誰でも使える場所です。大切に使っていただくことで、遊具や広場を長く安全に保つことができます。しっかり整った有料の運動施設と、気軽に使える公園、それぞれの良さを活かしながら、これからも安心して楽しく過ごせる公園づくりを進めていきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
８	世紀小学校	６年	滝波　宗悟（たきなみ　そうご）
テーマ	２．鳥取市の子育てについて		
提案要旨	鳥取の自然を生かした親子で遊べる場所について		

【提案内容】

　鳥取の自然や雨を生かした街づくりについて提案します。
雨の日は濡れるので外で遊ばない人が多いと思います。しかし、雨の日にあえて外で過ごすことには、晴れの日には味わえない魅力や、子どもにとっても大人にとってもたくさんのメリットがあると考えています。そこで、雨という天候を生かした屋外活動とまちづくりを提案します。
　まず、公園や広場の一部に雨の日でも遊べるスペースを設置したり、雨具を着て鳥取の自然を観察するイベントや自然体験プログラムを実施してはどうでしょうか。
　次に、屋根付きの遊歩道を整備したり、雨の日限定のイベントを企画したりすることも考えられます。雨の日に美しく映える紫陽花のライトアップなども、鳥取ならではの魅力になるのではないでしょうか。
　さらに、雨の日でも歩けるウォーキングコースのある公園や、雨の日専用のウォーキングマップがあれば、雨が続く時期の運動不足解消にもつながります。
　これらはすべて、新たな大規模施設を建設するのではなく、今ある公園や場所に少し工夫を加えることで実現できるのではないでしょうか。豊かな自然がある鳥取だからこそできることだと思います。退屈に感じていた雨の日が「楽しかった」と思える日になったら、素敵だと思いませんか。

【市長回答】

　雨の日でも楽しめる場所として、屋根付きの遊歩道やウォーキングコース、雨の日専用のウォーキングマップを作ってはどうかというご提言をいただきました。雨の日でも屋外で遊べる環境を整えてほしいというご意見です。
　鳥取の豊かな自然は、四季折々に変化に富んでいます。6月から8月にかけては猛暑が続く日もありますが、雨の日も晴れの日もそれぞれの楽しさがあります。特に海・山・川・鳥取砂丘など、他の地域にはない素晴らしい自然が鳥取にはたくさんあります。そのような自然の中でのびのびと遊ぶことは、体を動かすだけでなく、自然に親しみ、鳥取の良さを感じ、知ることにもつながります。安全に気をつけながら、雨の日も自然の中で遊んでいただくことは、とても素晴らしいことだと思っています。
　ウォーキングマップや雨の日のウォーキングコースなど、いただいたご提言はどれも大変ユニークなものです。すぐに実現することは難しい面もありますが、しっかりと研究を重ねてまいりたいと思います。

【担当課回答】

【こども未来課】
　鳥取の豊かな自然を生かし、晴れの日も雨の日も親子で楽しめる場所をつくるという、鳥取らしさを大切にした、とてもすてきな提案だと思います。
　鳥取市には、海、山、川、砂丘など、ほかのまちにはない豊かな自然があります。自然の中で遊ぶことは、体を動かすだけでなく、生き物や季節について学び、鳥取のよさを知ることにもつながります。
　一方で、自然を利用した施設をつくる場合には、けがや事故を防ぐための安全対策、雨や雪への対応、施設を長く管理する方法なども考えなければなりません。鳥取の自然を守りながら、親子が安心して楽しめる場所をどのようにつくることができるか、市として研究してみたいと考えています。
　まずは地区公民館などの既存施設を、子どもや親子が利用しやすい場所にしていくとともに、公共施設や民間施設の活用、民間事業者との協力なども含め、天候に左右されずに遊べる場所の可能性を引き続き考えていきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
９	世紀小学校	４年	安木　智洸（やすぎ　ちひろ）
テーマ	３．鳥取市の防災について		
提案要旨	ペットも一緒に避難できる場所をつくりたい		

【提案内容】

私の提案は、どの避難所でもペットと一緒に避難できることを広く知らせることです。
私は猫を飼っており、猫も大切な家族の一員なので、災害時には一緒に避難したいと思っていました。そこで、ペットと一緒に避難できる場所づくりを提案しようと考えていましたが、話し合いの中で、鳥取市ではどの避難所でもペットと一緒に避難できることがわかりました。一方で、ペットのエサは自分で準備して持参しなければならないこともわかりました。
このことをより多くの人に知ってもらうために、新聞やテレビなどで広く周知することが大切だと思います。また、災害が起きたときにすぐに避難できるよう、日頃からエサや必要なものを準備しておくことが重要です。ぜひ、みなさんにも事前の備えを心がけてもらいたいと思います。

【市長回答】

ペットと一緒に避難できる避難所にしてほしいというご提言をいただきました。
猫と一緒に避難できるようにしてほしいという具体的なお話もあり、エサは自宅から持参すること、またテレビや新聞などを通じて事前に準備できるよう広報してほしいというご意見もいただきました。
鳥取市の避難所では、すでにペットと一緒に避難していただくことが可能となっています。しかしながら、受け入れ環境がまだ十分に整っていない状況もありますので、順次環境を整えていきたいと考えております。そして、大切な家族であるペットと一緒に安心して避難していただけるよう、ペットの専門家とも連携しながら設備やルールを整備するとともに、さまざまな機会を通じて広報に努めてまいりたいと考えております。

【担当課回答】

【危機管理課】
鳥取市の避難所では、ペットと一緒に避難することができますが、受け入れる環境がまだ十分に整っていない部分もあります。
大切な家族であるペットと一緒に、安心して避難できるよう、ペットの専門家とも協力しながら、設備やルールを整えていきます。
また、いざというときにペットと一緒に避難できるよう、日頃からの備えについて、さまざまな方法でお知らせしていきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
10	世紀小学校	６年	池長　晋慈（いけなが　しんじ）
テーマ	３．鳥取市の防災について		
提案要旨	自分の避難場所を知ろう		

【提案内容】

私の提案は「自分の避難場所を知ろう」です。
皆さんは自分の避難場所を知っていますか。私はこのことを調べるまであまり知りませんでした。避難場所を調べるためにハザードマップを見てみましたが、少しわかりにくいと感じました。
そこで、マークやひらがなを使った、小学1年生でもわかりやすい簡易版のハザードマップを作ることが大切だと思います。これを小学校で配り、防災教育と合わせて学ぶことで、内容をみんなが理解できるようになると考えます。さらに、子どもが家に帰って保護者にも教えることで、防災への意識が家庭にも広がっていくのではないでしょうか。
また、ペットを避難場所に連れて行けるなど、知られていないルールもたくさんあります。こうした情報もイラストなどを使ってわかりやすく伝えられると良いと思います。

【市長回答】

自分の避難場所について、ご提言をいただきました。ハザードマップを簡易的にして小学1年生でもわかるようにすること、またペットに関する情報もイラストなどを使ってわかりやすく示すべきというご意見でした。
子どもの頃から防災について学ぶことは、自分自身の命と安全を守るうえでとても大切なことです。小学1年生にもわかるようなハザードマップにするというアイデアは、大変素晴らしいと思います。一目見てわかりやすいものにしていくべきだと考えており、まだ改善できる部分もありますので、今回いただいたご提言をしっかりと今後に生かしていきたいと思います。
また、皆さん一人ひとりにも、ぜひ防災学習に取り組んでいただきたいと思います。いざというときの避難場所や避難経路、危険な箇所などをあらかじめ確認し、自分だけのハザードマップを作ってみてはいかがでしょうか。

【担当課回答】

【危機管理課】
子どもの頃から防災について学ぶことは、自分の命を守ることにつながる、とても大切なことです。
防災マップを新しくする際には、今回いただいたご提案を参考に、子どもや高齢者にもわかりやすい防災マップの作成に取り組んでいきます。
また、皆さん一人ひとりにも、ぜひ防災について学んでほしいと思います。いざというときの避難場所や避難経路、危険な場所などをあらかじめ確認して、自分だけのハザードマップを作ってみてはいかがでしょうか。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
11	附属小学校	５年	山内　正太郎（やまうち　しょうたろう）
テーマ	３．鳥取市の防災について		
提案要旨	休日に防災訓練を行い、その数を増やしてほしい		

【提案内容】

提案は、「休日に防災訓練を行い、その回数を増やしてほしい」というものです。
僕は今年の1月に地震を体験しました。その際、学校以外で防災訓練に参加したことがほとんどないと気づきました。そこで、子どもも参加しやすいよう、休日に防災訓練を開催してほしいと思います。
調べてみると、他の県では市が主催する防災訓練を年間複数回開催しており、毎回想定する災害の種類を変えて実施しているところもあるそうです。鳥取市でも同様の取り組みを導入してみてはいかがでしょうか。鳥取市は雪が多い地域でもあるため、地震や大雨による水害だけでなく、雪害を想定した訓練も取り入れることが大切だと思います。さまざまな災害を想定して訓練を行うことで、子どもでも多様な災害に対応できるようになり、自分の命を自分で守る力が身につくと考えます。

【市長回答】

休日に防災訓練を実施し、その回数を増やしてほしいというご提言をいただきました。他の県の取り組みもご紹介いただくとともに、鳥取市は雪が多い地域であることから、雪害を想定した訓練も取り入れてはどうかというご意見もいただきました。
鳥取市では、昭和18年9月10日に発生した鳥取大地震を教訓として、毎年9月10日を「鳥取市防災の日」と定め、関係機関のご協力のもと、市内全域で防災訓練を実施しています。また、市内各地域の自主防災会においても、それぞれ独自に訓練に取り組んでいただいています。
地震・大雨・雪害など、さまざまな災害を想定した訓練を日頃から積み重ねることが、いざというときに役立つと考えています。今回いただいたご提言をしっかりと踏まえ、鳥取市としても引き続き取り組んでまいります。皆さんのお住まいの地域でも自主防災訓練が行われていますので、ぜひご家族でご参加いただければ幸いです。

【担当課回答】

【危機管理課】
訓練を繰り返し行うことが命を守ることにつながるというご意見は、まさにそのとおりだと思います。
鳥取市では、昭和18年（1943年）9月10日に起きた鳥取大地震の教訓をいかし、毎年9月10日を「鳥取市防災の日」と定めて、総合防災訓練を行っています。また、市内各地域の自主防災会でも、それぞれ独自に訓練に取り組んでいただいており、地震・大雨・雪害など、さまざまな災害を想定した訓練をさらに充実させていきます。
ぜひ、皆さんの地域での防災訓練に、ご家族で参加してみてください。また、近所の方にも声をかけるなど、地域みんなで命を守る取り組みを心がけていただけると嬉しいです。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
12	附属小学校	６年	筏津　悠（いかだつ　ゆう）
テーマ	３．鳥取市の防災について		
提案要旨	命を守るための防災		

【提案内容】

僕が提案する内容は、鳥取市を災害に強くすることです。
鳥取市は高齢者が多く、人口が少ないため、山にいる高齢者などが孤立したりすることがあります。地元の人や消防、警察の動きを事前に決めたり、ヘリなどの着陸場所を決めておく必要があると思います。
また、令和8年熊本地震では、熱中症などによって亡くなられた方もいるので、夏に災害が起きたときのためにも対策を進めるべきだと思います。さらに、避難所が足りない、設備が不十分なために、避難したとき不快に感じるかもしれません。なので、普段はスポーツなどができる施設を作り、非常時には電源が使え、備蓄品がしっかりあるなどの設備を進めた施設が必要です。
最後に、防災訓練についてです。訓練で非常時に焦らないように、防災訓練の回数を増やして、慣れておき、非常時にパニックにならないように対策するべきだと思います。

【市長回答】

防災についていくつかのご提言をいただきました。避難所の数や設備がまだ十分ではないこと、平常時はスポーツ施設として活用しつつ、いざというときには避難所としても使える施設の整備、ヘリコプターの着陸場所の事前確保、熱中症対策、そして非常時にパニックにならないよう防災訓練の回数を増やすことなど、いずれも大切なご指摘だと思います。
このたび、熊本地方を震源とするマグニチュード7.1・最大震度7の地震が発生しました。鳥取市からも明日より、罹災証明書の発行業務、応急危険度判定、健康支援業務などに携わる職員を被災地へ順次派遣することを決定しています。平素から災害への備えを積み重ねることが、いざというときの被害を最小限に抑えることにつながります。自主防災会の訓練や市としての訓練など、さまざまな災害を想定した取り組みをこれからもしっかりと続けてまいります。
避難所については、現在、鳥取市内に屋内避難所を199か所確保しています。学校だけでなく体育館などのスポーツ施設も、いざというときには避難所として活用できるようにしています。これらの一覧は防災マップや鳥取市のホームページでご確認いただけますので、ご自身のお住まいの近くにある避難所をあらかじめ把握しておいていただければ幸いです。
また、ヘリコプターの着陸場所の事前確保や、大雪による倒木で道路が塞がれないよう事前に伐採を行うなど、孤立対策にも取り組んでいます。さらに、ドローンを活用した緊急物資の輸送についても実用化に向けた研究を進めてまいります。いただいたご提言をしっかりと今後の取り組みに反映させてまいります。

【担当課回答】

【危機管理課】
災害時の課題の改善について様々なご提案ありがとうございます。
鳥取市では、大雪などで木が倒れて道路が塞がれないよう事前に伐採したり、ヘリコプターの着陸場所の確保やドローンを活用した緊急物資の輸送について実用化に向けた研究などを行っています。
また、現在鳥取市内には、屋内避難所を199か所確保しており、体育館などのスポーツ施設もいざというときに避難所として活用できるようにしています。避難所となる施設の中でも、みなさんに特になじみの深い学校や地区公民館には、ポータブル電源など様々な備蓄品を配置して、夏の暑い時期や冬の寒い時期でも過ごしやすい避難所となるよう環境の改善に取り組んでいるところです。避難所の一覧は、防災マップや市のホームページでもご確認いただけますので、ご自身のお住まいの近くにある避難所をあらかじめ把握しておいていただければ嬉しいです。
最後に、鳥取市では、毎年9月10日を「鳥取市防災の日」と定め、関係機関のご協力のもと、市内全域で防災訓練を実施しています。また、市内各地域の自主防災会においても、それぞれ独自に訓練に取り組んでいただいています。
皆さんの地域での防災訓練に、ぜひご家族などで参加してみてください。これからも防災への関心を持っていただけると嬉しいです。。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
13	附属小学校	６年	橋本　典明（はしもと　のりあき）
テーマ	３．鳥取市の防災について		
提案要旨	鳥取市で行われている防災とそれに対する僕の考え		

【提案内容】

僕が提案するのは、鳥取市の防災における改善点についてです。改善してほしい点が3つあります。
1つ目は、幅広い年齢層に伝わる防災の取り組みです。ハザードマップはわかりにくく、小さな子どもや高齢者には伝わりにくい部分があります。誰もが理解できるような防災情報の発信を提案します。
2つ目は、防災意識を広めるための活動の充実です。今回の提案にあたって調べた資料によると、半数以上の人が防災に対して十分な意識を持っていないという結果がありました。防災訓練の回数を増やしたり、防災に関するイベントを開催したりするなど、防災意識を高める取り組みが必要だと思います。
3つ目は、人口の少なさによる人手不足の解消です。先日の熊本地震では、ニュースで人手不足が報じられていました。鳥取市は人口が少ない地域であるため、災害時にはさらに深刻な状況になりかねないと感じています。
以上の3点について、ぜひ改善に取り組んでいただきたいと思います。

【市長回答】

防災の改善点として、誰でもわかる防災マップの整備、防災訓練や防災イベントへの取り組み、そして人口減少による人手不足への対応が必要であるというご提言をいただきました。
鳥取市としても、さまざまな取り組みを進めてまいります。9月10日の防災訓練をはじめ、訓練の機会を増やしていくことが重要だと考えています。
人口減少に関しては、「自助・共助・公助」という考え方が大切です。まず自助として、自分自身の命と安全は自分で守ることを第一とする。次に共助として、近くにいる人同士がお互いに支え合い、助け合うことが重要です。しかし、人口が減少すると、こうした支え合いが難しくなることも事実です。だからこそ、普段から地域の皆さんがつながりを持ち、交流を深めておくことがとても大切です。地域の皆さんがお互いに助け合い、協力し合うことで、災害発生時の被害を最小限に抑えることができると考えています。ぜひ、そのような意識を持って日頃から取り組んでいただければ幸いです。

【担当課回答】

【危機管理課】
誰もがわかりやすい防災マップの整備や、さまざまな方法による防災情報の発信は、とても重要なことだと思います。防災マップを新しくする際には、今回いただいたご提案を参考に、子どもや高齢者にもわかりやすい防災マップの作成に取り組んでいきます。
また、防災への意識を高めるため、訓練の機会を充実させる取り組みを進めています。そのひとつとして、地域の自主防災会が行う防災訓練や研修会への支援を行っています。ぜひ、皆さんの地域での防災訓練に、ご家族で参加してみてください。また、近所の方にも「一緒に参加しよう」と声をかけるなど、地域みんなで命を守ることを心がけていただけると嬉しいです。
人口が減ることへの対応については、「自助（じじょ）・共助（きょうじょ）・公助（こうじょ）」という考え方がとても大切です。自分の命は自分で守る「自助」、地域の人同士がお互いに助け合う「共助」、そして市などの行政が助ける「公助」、この三つが力を合わせることで、災害のときの被害を少なくすることができます。ぜひ、この考え方をご家族や友達にも伝えていただければ嬉しいです。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
14	青谷小学校	６年	井島　希香（いしま　ののか）
テーマ	４．鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	若者が来やすい街にする		

【提案内容】

私の提案は、「若者が来やすい街にする」というものです。
現在、少子高齢化や人口減少が大きな課題となっています。このままでは子どもがさらに減少し、深刻な状況になりかねません。そこで、観光客をはじめ多くの人が鳥取を訪れ、若者が来やすい街にしていくことが大切だと考えました。
鳥取には、なしっこ館やかにっこ館、青谷上寺地遺跡など、子どもから大人まで楽しめる施設があります。こうした施設やイベントをさらに充実させることで、子どもも大人も楽しく暮らせる環境が整い、観光客の増加や移住の促進につながると思います。また、鳥取の魅力やふるさとの良さをより多くの人に知ってもらうことにもつながると考えます。
具体的な提案の一つ目は、公園・遊び場の整備です。私の地域では公園が少なく、遊具も少ないためボール遊びができないなど、困っている人が多くいます。また、近くに公園がなく車でしか行けない地域もあるため、公園を新設することで解決できると思います。遊び場の内容としては、夏に楽しめる水遊び広場や大型アスレチック、ジップライン、雨の日でも遊べる屋根付きの遊び場、ベンチやハンモックを設置したゆっくりできるスペース、梨やラクダをモチーフにした遊具なども取り入れてほしいと思います。
二つ目は、イベントや交流の充実です。子どもが企画・運営する子ども祭りや、県外の子どもと交流できるキャンプイベント、スタンプラリーで鳥取市内を巡るイベントなどを開催することで、地域のつながりや観光客の増加につながると考えます。
三つ目は、施設の充実です。室内プールの整備や、空き家を活用する人への補助金制度の創設なども有効ではないかと思います。
これらの取り組みを通じて、子どもも大人も楽しく暮らせる街づくりを進め、鳥取市の人口増加と地域の活性化につなげていただきたいと思います。

【市長回答】

「若者が来やすい街にする」というテーマでご提言をいただきました。人口減少・少子高齢化が進む中、鳥取に多くの観光客が訪れ、若い世代が来やすい街にしていくべきというご意見です。なしっこ館やかにっこ館、青谷上寺地遺跡などがある一方で、子どもも大人も楽しめる施設をさらに増やすべきではないかというご提言もいただきました。また、イベントを充実させることで観光客を増やし、子どもも大人も楽しく暮らせる環境を整えることが、人口増加や移住の促進につながるというご意見もいただきました。
私もまったく同感であり、鳥取市としても観光客の誘致に向けた取り組みを進めてきたところです。引き続き、さらに力を入れてまいりたいと考えています。鳥取市は全国に先駆け、平成18年から移住・定住の促進に取り組んでおり、今年でおよそ20年になります。移住・定住者の数は増加しているものの、全体的な人口減少には歯止めがかかっていない状況です。この課題に対し、さらに力を入れて取り組んでいかなければならないと考えています。
また、公園や遊具が少ないこと、近くに川があり危険な場所があること、屋根付きの遊び場が必要なこと、梨やラクダなど鳥取ならではのモチーフを活用した施設の整備、キャンプや屋内で遊べる施設の充実、そして空き家の利活用を促進するための補助金制度の創設など、具体的なご提言を多数いただきました。いただいたご提言をしっかりと今後の取り組みに反映させていきたいと思っております。
鳥取市には素晴らしい観光地がたくさんあります。これらをさらに磨き上げるとともに、鳥取市の魅力をより積極的に情報発信していくことが重要だと考えています。歴史・文化・豊かな自然といった鳥取市ならではの特徴を、市民の皆さんと共有しながら広く発信していくことで、移住・定住のさらなる促進と、ふるさと鳥取の良さを多くの方に知っていただく機会につながっていくと考えています。いただいたご提言をしっかりと受け止め、取り組んでまいりたいと思います。

【担当課回答】

【地域振興課】
鳥取市の良さや楽しいところを知ってもらうための情報発信として、しゃんしゃん祭りや土曜夜市などのイベントやサーフィン体験、砂丘を維持するための意外な取り組みとして砂丘の一斉除草ボランティアなど、鳥取での暮らしを県外の若者にも知っていただけるようSNSを活用した動画の配信を行っています。これからも鳥取市に住んでみたいと思っていただけるよう、鳥取市の魅力をたくさん伝えていきたいと考えています。

【観光・ジオパーク推進課】
本市や岩美町など周辺の町と一緒になり、広いエリア単位でスマートフォンのアプリケーションを活用したファンづくりを進めています。「このへん共和国」というネーミングで、現在約2万8千人の会員を集めており、毎月、「イベント」や「食」などの観光情報をメールマガジンとして発信しています。また、このアプリケーションには電子スタンプラリー機能も備えており、年間複数回の周遊イベントを実施しています。四季を通じて素晴らしい鳥取の観光情報や、多くの楽しいイベント情報をより多くの方々へ向けて発信できるよう情報発信手段の充実に取り組んでいきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
15	附属小学校	５年	河﨑　ひばり（かわさき　ひばり）
テーマ	４．鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	鳥取市全体をテーマパークにしよう		

【提案内容】

私の提案は、「鳥取市全体をテーマパーク化しよう」です。
鳥取市の人口減少を食い止めるためには、住んでいる人にも観光客にも楽しめる街であることが大切だと思います。何度でも訪れたいと思える場所でなければ、観光客の来訪は1回きりになってしまいます。また、街に楽しみがなければ、住んでいる人も休日には市外に出かけてしまいます。そこで、鳥取市全体をテーマパークのように考えてつくることを提案します。
具体的には、駅を出たら鳥取市に関連するキャラクターがお出迎えし、砂丘にちなんで駅前に砂場を設けます。空き店舗が目立つ商店街は、鳥取市の伝統工芸品や鳥取ならではのおいしい食べ物を食べ歩きできる場所に生まれ変わらせ、空き家をなくしていきます。また、街のあちこちに鳥取の魅力を伝えるスタッフを配置し、鳥取の人の温かさに触れてもらえるようにします。観光地を訪れてもらうだけでなく、小さな記念品をお渡しするなど、おもてなしをさらに充実させることも大切だと思います。そのためにも、鳥取市にはこうした取り組みへの支援に力を入れてほしいと思います。
多くの人が鳥取市を訪れ、楽しいと感じてもらえる街になることで、働く場所も増え、鳥取市全体に活気が生まれると考えます。

【市長回答】

「鳥取市全体をテーマパークにしたらどうか」というご提言をいただきました。人口減少を食い止めるためには、住んでいる人にも観光客にも楽しめる街であるべきだという、大変素晴らしいご意見です。
観光客に何度でも訪れていただける街であるためには、まず住んでいる私たち自身が「この街は素晴らしい」と実感できることが大切だと思います。そのような視点を大切にしながら、鳥取市のまちづくりを進めてまいりたいと考えています。市全体をテーマパークのようにつくっていくというアイデアを踏まえ、鳥取にふさわしいテーマとは何かについても、改めて考えていかなければならないと思っています。
鳥取市のキャラクターがお出迎えし、砂丘にちなんで駅前に砂場を設けるというアイデアはとても面白いと思います。駅を降りた瞬間から鳥取砂丘や温泉など、鳥取ならではの雰囲気を感じられるような工夫は、鳥取の良さを知っていただく大きなきっかけになるのではないでしょうか。また、商店街の空き店舗に伝統工芸品のブースを設けて空き店舗を解消するアイデアや、おいしい食べ物を食べ歩きできる環境づくりも、鳥取らしい取り組みだと思います。
鳥取の人の温かさは、県外の方からも高く評価されている鳥取の大きな魅力の一つです。多くのスタッフを配置して鳥取の温かさに触れていただき、おもてなしの心で多くの皆さんをお迎えすることで、「鳥取に来て良かった」と感じていただける街にしていきたいと思っています。
また、しゃんしゃん祭りを一年中体験できる施設があればというご提案も、大変素晴らしいと思います。8月13日から15日のしゃんしゃん祭りだけでなく、しゃんしゃん傘踊りや麒麟獅子舞などを年間を通じて体験・鑑賞できるような工夫も必要だと考えています。関係団体や市民の皆さんと連携しながら、満足度の高いおもてなしの体制づくりを目指してまいります。

【担当課回答】

【観光・ジオパーク推進課】
本市では、JR西日本と連携し観光列車で訪れる観光客の方々を対象にしたお出迎えイベントを頻繁に開催しています。その中では、しゃんしゃん傘をデザインしたオリジナルのメモ帳など記念品の配布や、傘踊り団体による傘踊りの披露を行っており、毎回お楽しみいただいております。
また、提灯やシャッターへのスポットライト投影により夜間照明演出をしている若桜街道商店街では空き店舗を活用したマルシェイベントへの支援を行い、楽しく商店街を歩いていただける環境づくりに取り組んでいるところです。
引き続き、鳥取らしさを感じていただける環境づくりを進めていきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
16	附属小学校	６年	山村　葉那乃（やまむら　はなの） 松尾　陽菜子（まつお　ひなこ）
テーマ	４．鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	鳥取県の人口を増やすために観光客を増やしたい		

【提案内容】

（山村議員）
テーマは、「観光客を増やして鳥取県の人口を増やす」です。
観光客を増やし、鳥取県の人口増加につなげるために、鳥取県の魅力である豊かな食や伝統工芸品などを広く発信したいと思います。鳥取の良さを知ってもらうことで、「鳥取に住みたい」と思う人が増え、人口増加につながると考えます。そのためには、高速道路の整備を進めるとともに、空港の便数や就航先を3便ほど増やすことが有効だと思います。鳥取県内外の人が行き来しやすくなることで、観光客の増加にもつながると考えます。

（松尾議員）
実際に鳥取から沖縄へ旅行しようとした際、直行便がなく遠回りをした経験があります。沖縄に限らず、九州・関西・東北など、日本各地への就航先を増やしてほしいと思います。移動の選択肢が広がることで、鳥取を訪れる観光客も増え、鳥取県の人口増加にもつながると考えます。

【市長回答】

鳥取市の人口を増やすために観光客を増やすべきだというご提言をいただきました。具体的には、空港の便数を増やすことや高速道路の整備を進めることで、多くの方が行き来しやすくなるというご意見です。また、鳥取から沖縄へ向かう際に遠回りになったというご経験や、九州・関西・東北へスムーズに行けるようにしてほしいというご提案もいただきました。
一度にすべてを実現することは難しい面もありますが、高速道路の整備については、毎年さまざまな活動を通じて順次整備が進むよう取り組んでいます。引き続き、できる限り早期の整備に向けて努力してまいります。
空港の便数については、現在往復5便を運航していますが、6便への増便はなかなか難しい状況です。まずは現在の5便が維持されるよう、引き続き取り組んでまいります。九州・関西・東北への定期便の確保は難しい面がありますが、先般、新千歳空港と鳥取を結ぶチャーター便が期間限定で運航された実績もあります。今後も必要に応じて、こうしたチャーター便の運航につながる取り組みも進めていくべきではないかと思っております。

【担当課回答】

【観光・ジオパーク推進課】
本市の観光情報をまとめて発信している「鳥取観光サイト」では、鳥取砂丘の情報を中心に、観光イベント情報など幅広く扱っており、近年、非常に多くの方々にご利用いただいています。今年は、AI技術を活用して観光客の好みに応じた周遊プランが作成できるコンシェルジュ機能を追加する予定です。今後も、観光情報発信機能の充実に取り組み、鳥取の素晴らしさを国内外へ発信していきます。
【都市企画課】
観光だけでなく、食の流通、災害への備えの点でも、安心・安全な道の整備は大切ですが、本市を通る高速道路は、つながっていない部分や、２車線の部分など、整備を進める必要があります。
このため、今後も引き続き、本市だけでなく、沿線の自治体と協力しながら、高速道路の整備を行う国に対して、さまざまな活動を通じ、要望を行っていきます。
【交通政策課】
現在、鳥取空港では、鳥取羽田便が1日5往復運航しております。これは、本市をはじめ鳥取県や周辺自治体、経済団体等で構成する懇話会による、利用者増加に向けた取組が評価されて便数が維持されているものです。利用者が増えれば運航便数が増える可能性が高まりますので、引き続き利用促進に取り組んでいきます。
また、九州・関西・東北への定期便の確保は難しい面がありますが、羽田便以外の路線開拓にも取り組んでおり、本年7月には、北海道の新千歳空港と鳥取空港を結ぶチャーター便を期間限定で運航しました。今後も、新しい路線の開拓や運航便数の増加が実現するよう関係者と連携して取り組んでいきます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
17	湖山小学校	６年	坂口　友香（さかぐち　ともか）
テーマ	４．鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	受け入れ合えるイベントを開催してほしい		

【提案内容】

私の提案は、受け入れ合えるイベントを開催してほしいです。
私が住む湖山地区には湖山公民館があり、さまざまなイベントが開催されています。そのおかげで、地域の方と子どもたちの距離が他の地域と比べて近いと感じています。また、湖山には鳥取大学の学生や工場で働く外国の方も多く住んでいます。そのような方たちとも気軽に交流できるイベントがあると良いと思います。
具体的には、地域全体で取り組むダンス教室や、外国の方や大学生と一緒に楽しむスポーツ大会などが、多くの人が交流するきっかけになるのではないでしょうか。このような温かいイベントを鳥取市全体に広めていくことで、より良い鳥取市になると思います。

【市長回答】

イベントをさらに充実させ、多くの方が気軽に交流できる場を増やしてほしいというご提言をいただきました。ダンス教室の開催なども具体的なアイデアとしてご提案いただき、年齢・性別・国籍にかかわらず誰もが気軽に交流できる場を増やしてほしいというお気持ちは、大変大切なことだと思っています。ダンス教室の開催についても、実現に向けて検討してまいりたいと考えています。
鳥取市には現在、地域の皆さんが集まって交流できるコミュニティセンターや地区公民館が多数あります。こうした既存の施設を活用しながら、地域のイベントや各種教室などさまざまな活動が行われています。新たなコミュニティセンターを増やすことは一度に実現することが難しい状況ですが、今ある施設をさらに有効に活用し、交流の機会が広がっていくよう取り組んでまいります。

【担当課回答】

【生涯学習・スポーツ課】
鳥取市には現在、地域の皆さんが集まって交流できるコミュニティセンターや地区公民館が多数あります。こうした今ある施設を活用しながら、地域のイベントや各種教室など、さまざまな活動が行われています。
地区公民館ごとに内容はさまざまですが、「子どもと大人のふれあい事業」を実施しています。みなさんに積極的に参加していただくことで、さらに交流の輪が広がっていくと思います。
また、文化センター、こども科学館やファブラボとっとりでも、さまざまなワークショップを行っています。こちらのイベントでも体験を通じて、交流が深まると考えます。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
18	湖山小学校	６年	宮本　侑果（みやもと　ゆうか）
テーマ	４．鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	街灯をふやしてほしい		

【提案内容】

私の提案は、街灯をもっと増やしてほしいというものです。
習い事の帰りに夜遅くなることがあります。車が通る時はヘッドライトで明るくなりますが、車が来ない時は足元が見えにくくなります。その道の横には川があるため、暗い中での転落が心配です。特に冬は雪で路面が滑りやすくなるため、さらに危険だと思います。実際に家族も「すごく怖かった、足元が見えにくくて何があるかわからなかった」と話していました。
また、街灯の少ない通学路も他にあり、危険な状況が続いています。街灯を増やすことで、少しでもけがをする人が減ると思います。
具体的な場所は、湖山にあるピカピカコインランドリー近くの通路です。街灯を設置していただくことで、安心して通ることができるようになります。ぜひご検討をお願いします。

【市長回答】

湖山のピカピカコインランドリー近くに川があって危険だという具体的な場所もお示しいただき、街灯を増やしてほしいというご提言をいただきました。夜間に川が近くにある場所は特に危険であり、大切なご意見だと受け止めています。
鳥取市では、夜道を安全に通行していただけるよう、市内の各町内会からご要望をいただいた場所に防犯灯を設置する取り組みを行っています。設置後の電気代については各町内会にご負担いただく仕組みとなっていますが、必要な場所にはできる限りご要望にお応えして防犯灯を設置してまいりたいと考えています。
ご提案いただいた場所は県道沿いのようですので、管轄は鳥取県となります。ただし、街路灯の設置に関する基本的な考え方は鳥取市と鳥取県で共通しており、横断歩道や交差点付近への設置を基本としています。該当箇所についても確認してまいりたいと思いますが、まずはお住まいの町内会に防犯灯の設置が可能かどうかご確認いただければ幸いです。
引き続き、暗い場所でも安全・安心に通行できる環境づくりに努めてまいります。

【担当課回答】

【協働推進課】
夜道などを安全に通行できるように照らす照明灯を「防犯灯」といいます。鳥取市では、町内会から要望があった場合は、その町内会のエリア内に市が新しい防犯灯を設置し、町内会がその後の電気代の支払いなど維持管理をされています。
防犯灯の設置が必要だと考えられている場所が、お住まいの町内会のエリアの場合は、ご家族を通して町内会に相談してみてください。

令和８年度鳥取市こども未来会議　市長への提案

提案番号	学校名	学年	氏名
19	附属小学校	６年	廣戸　晶（ひろと　しょう）
テーマ	４．鳥取市のまちづくりについて		
提案要旨	広聴について知ってもらうための仕組みづくり		

【提案内容】

提案は、広聴制度をより多くの人に知ってもらうための仕組みづくりです。
まちづくりについて調べる中で、僕は初めて「広聴」という言葉を知りました。同じように、広聴を知らない人は多いのではないかと思います。広聴の目的は、市政への提案や要望、苦情などを市民の立場に立って受け止め、その真意を理解することです。広聴制度が広く知られることで、市政への関心が高まり、より良いまちづくりにつながると考えます。
鳥取市が現在取り組んでいる広聴制度には、市政提案・市長への手紙・市民政策コメント・地区要望・地域の未来づくり懇談会の開催・広報モニターなどがあります。これだけ多くの取り組みが行われているにもかかわらず、十分に知られていないのはもったいないことだと思います。
そこで、次のような広報方法を提案します。まず、広聴制度の内容をイラストや図でわかりやすくまとめ、CM・ショートアニメ・ポスターなど、多くの人に自然と伝わる手段で発信することです。次に、実際に市民の声が市政に届いた事例をアニメ化し、制度の効果を具体的に伝えることです。さらに、シミュレーションゲームを活用して、実際の制度を使ったまちづくり体験をイベントなどで行うことも有効だと考えます。

【市長回答】

広報広聴のうち、広聴についてのご提言をいただきました。鳥取市の広聴の仕組みをしっかりと市民に知っていただくための取り組みが必要だというご意見は、まったくその通りだと思います。
実は鳥取市でも今年度から、市民の皆さんのさまざまな声やご意見をしっかりとお聞きし、市政に反映させることにより一層力を入れているところです。広聴という言葉を知っている方が少ないのではないかという点について、数値を挙げてご提言いただきました。また、市長への手紙・陳情・要望など、既存の広聴の仕組みについてもご紹介いただきました。こうした制度をより多くの市民の皆さんに知っていただき、積極的に活用していただきたいと考えています。
さらに、特に若い世代を中心にSNSの活用が広がっていますので、SNSを活用した広聴・広報にも取り組んでまいりたいと考えています。こうした仕組みや制度を広く周知し、市民の皆さんからさまざまなご意見をいただきながら、今後の市政に生かしてまいります。

【担当課回答】

【くらしの安心・相談課】
市長への手紙や陳情・要望などの広聴制度を、市民の皆さんに広く知っていただくためには、市役所からの情報発信の方法について考えていく必要があります。